

# 平成26年度成果報告書

## I. 業務の内容

### 1. 業務の題目

課題研究「科学リテラシーの向上に関する実践的研究」

### 2. 担当フェロー

星 元紀  
長崎 榮三

### 3. 当該年度における成果

#### ①国民の科学技術リテラシーの向上に関する調査・研究

##### ・科学技術リテラシー研究打合せ会の継続的な実施

平成25年度に引き続き、「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書（2008, 科学技術振興調整費「科学技術の智プロジェクト」）の内容を踏まえて、国民の科学技術リテラシー向上のための具体的な施策を策定するためのロードマップ及びベンチマークの検討に向けて研究打ち合わせ会を5回実施した。北原和夫氏（JST 科学コミュニケーションセンター 科学コミュニケーション研究主監／東京理科大学教授）のアドバイスを得ながら、異なる研究背景を持つ4名の共同研究者と共に、科学技術リテラシーの基本的な考え方を下記5つの視点から検討し、議論を重ねた。

1. コンピテンシーとの関係
2. 「日本」という文化土壌の特徴
3. リスクリテラシーとの関係
4. この70年ほどの教育の変遷との関わり
5. 科学技術リテラシーの主体について

##### 共同研究者（五十音順）：

大橋 理枝 放送大学 准教授  
工藤 充 京都大学 物質一細胞統合システム拠点 (iCeMS) 特定研究員  
千葉 和義 お茶の水女子大学 教授  
奈良 由美子 放送大学 教授

##### 研究打ち合わせ会 一覧：

会場／JST 東京本部 ※第28回は日本科学未来館で開催

- |      |         |               |
|------|---------|---------------|
| 第25回 | ユニット検討会 | (2014年4月24日)  |
| 第26回 | ユニット検討会 | (同年5月26日)     |
| 第27回 | ユニット検討会 | (同年7月2日)      |
| 第28回 | ユニット検討会 | (同年9月25, 26日) |
| 第29回 | ユニット検討会 | (同年11月14日)    |

#### ②調査結果のとりまとめと提言

##### a. 科学技術リテラシーに関する報告書の作成

上記①で重ねた議論に基づき、科学技術リテラシー向上のさらなる推進に向けた今後の方針・方策を提言として報告書にまとめ、印刷して配布すると共に JST 科学コミュニケーションセンターHP で公開した。

b. 成果報告会の開催

科学技術リテラシーの向上に関する実践的研究の成果を広く一般に報告するため、成果報告会を開催した。ここでは、各共同研究者から成果報告を行うと共に参加者を交えたワークショップを行い、参加者から「科学技術リテラシーの定着・普及に向けた活動の提案」に対するフィードバックを得た（別紙参照）。

開催概要：

タイトル／科学技術リテラシーに関する課題研究 報告会

日 時／2014年12月23日（火・祝）13：00～16：00

場 所／JST 東京本部 地下1階大会議室

詳 細／<http://www.jst.go.jp/csc/research/hoshi/briefingsession23dec2014.html>